Akita University

評価委員からの寄稿

評価委員会外部委員として

秋田工業高等専門学校
副校長（総務担当）　野　坂　　肇

誠に申し訳ないのですが、神谷先生から学外委員就任の電話をいただくまで秋田大学評価センターというものを知らず、断れるものならば断りたいと思いながら、山本文雄学長には秋田高専参与会会長を、また多くの先生方に非常勤講師をお願いしてきたこともあり、何もわからないまま委員を引き受けることとなりました。

後からわかったことなのですが、平成28年度は平成27年度実績報告書の作成に加えて、第２期中期目標期間の実績報告書の作成、第３期の原案作成の作業が重なり、評価センターにとって多忙な年に当たっていたということです。４月に第２回委員会が開催されることになり、議題に「中期目標・中期計画」という見慣れた言葉があったので、高専と似たようなものかと思ってしまいましたが、会議資料は内容、量とも全く比べようがないものでした。研究業績説明書（案）が４学部61ページ、平成28年度計画だけでも52ページに及ぶものでした。ペーパーレス会議はなかなか馴染めないのですが、こういうことかと思い知らされました。第３回委員会のときは、資料を添付ファイルで送ったら大容量のため返送されてきました、というメールをいただき、当日資料ファイルをいただいたら586ページありました。これらの膨大な資料の作成と取り纏めをしている評価センター委員、室員の方々にはただ、ただ、頭が下がる思いです。

高専も平成16年に55高専が１つの独立行政法人となり、大学法人と同じように中期目標･中期計画を作成し、各年度計画･実績報告をしなければならなくなりました。第１中期（～平成20年）の頃はどの程度のものを作ればよいのかわからず、随分無理な中期目標・中期計画を作成したように思います。第２中期（～平成25年）になると少しずつ修正・簡素化され、現在（第３中期）では、各高専は指定された項目に従って特徴的な取組みを記載すればよいようになっていて、それほど多くの労力をかけずに済むようになりました。

秋田大学は平成26年度実績において厳しい評定を受けたということで、大学法人がおかれている厳しい状況を知りました。第４回委員会では大学法人の27年度評価結果が報告され、延べ55法人が「課題とされる事項」で指摘を受けている中、秋田大学は高い評価を得ていたように思われます。さらに、神谷センター長から評価結果等のフィードバックの重要性について説明があり、推進していく方針が示されました。今後も28年度実績報告、29年度年度計画、さらに大学機関別認証評価への準備と続くようです。大学法人の評価が運営交付金の配分に反映されるようですので、学外委員として微力ながらお役に立てればと思います。